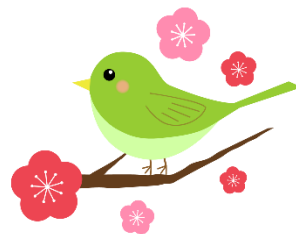


みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和5年4月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第115号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

《春号の内容》

- HPVワクチンについて
- 「つなぐ・つなげる」を改めて考える
- やり抜く力

…医師：相良 守峰
…医療ソーシャルワーカー：赤間 弘治
…看護師：石塚 玲子

HPVワクチンについて

—子宮頸がん撲滅に向けて—



産婦人科／医師：

相良 守峰

(さがら もりお)

子宮頸がんとは子宮頸部（子宮の入り口付近）にできるがんで、日本では年間約10,000人の女性が子宮頸がん罹患し、約2,900人が命を落としています。子宮頸がんはワクチンと検診により予防できます。

オーストラリアでは2028年に子宮頸がんが撲滅（10万人あたり4人未満）されると推測されています。日本は先進国の中で唯一、子宮頸がんの罹患率も死亡率も上昇傾向にあります。

子宮頸がんの原因はほぼヒトパピローマウイルス（HPV）で、女性の生涯で80%以上が性交渉によって感染するといわれています。

HPVは200種類以上の型があり、がんとの関連から低リスク型と高リスク型に分類されます。日本人に多い高リスク型はHPV16/18型です。

HPV感染を防ぐワクチンは現在3種類あります。
◆2価ワクチン（サーバリックス）、HPV16/18型
◆4価ワクチン（ガーダシル）、HPV6/11/16/18型
◆9価ワクチン（シルガード9）、
HPV6/11/16/18/31/33/45/52/58型の予防です。
2価、4価ワクチンは子宮頸がんの65%、9価ワクチンは子宮頸がんの88%の予防効果があります。

HPVワクチンは以前、副作用の問題から積極的な勧奨を控えていましたが、
今年の4月より公費の定期接種として9価ワクチン（シルガード9）が承認されました。

9歳以上15歳未満の女性は、2回の接種となっています。2価、4価ワクチンは3回接種です。

9つの型のうち、HPV16/18/31/33/45/52/58型の7つの型は、子宮頸がん、外陰がん、膣がんなどの原因です。またHPV6/11型は、肛門や性器周辺に良性のイボが発生する尖圭コンジローマの原因です。

HPVワクチンは子宮頸がんを100%予防できる訳ではありません。接種後も20歳を過ぎたら、2年に1度の子宮頸がん検診を受けましょう。ワクチンと検診で子宮頸がんを撲滅しましょう。



「つなぐ・つなげる」を 改めて考える

医療社会事業課：

医療ソーシャルワーカー



赤間 弘治

(あかま こうじ)

今年は、様々なスポーツの国際大会が開催されます。その中でも、3月10日に行われた野球の世界一を決めるWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）について触れたいと思います。

3月10日、日本代表の先発はダルビッシュ有投手でした。同選手は、日本代表の事前合宿から参加した唯一のメジャーリーガーです。若い投手に、自らの球種を惜しげもなく教えたり、日本代表の雰囲気にも馴染めていない若い選手のために食事会を開いたりなど、球場内外でまさに他のメンバーをつなぐ役目を果たしていました。

しかし、3月10日に先発登板したものの、相手打線につかまり3点を失う結果となりました。その後、中継ぎ投手や打線が奮起したことにより大差で勝利したことは皆さんの記憶にも残っていると思います。誰かが困っている時は、他の誰かがフォローする。当たり前のようで、実際は難しいものです。今回のWBC日本代表チームは、そのようなことを教えてくれたものと思います。

さて、私自身は、「つなぐ・つなげる」ということが一つの仕事になっています。

病院は、専門資格を持ったスタッフの集まりです。たとえば、医師や看護師、リハビリのスタッフなどは直接患者さんに対して、治療や看護、リハビリなどを提供します。

しかし、患者さんの中には、もとの生活に戻ることができないまま退院を考えなければならない方も少なくありません。私たち医療ソーシャルワーカー（相談員）は、そのような時のために存在しています。

実際に私たちが対応する相談は、担当の医師からいろいろと話をされたが、言われたことの意味が分からない。リハビリをして自宅に帰ることができると思っていたが、それが叶わないので目の前が真っ暗になった。仕事をしていたが、職場に復帰できないので今後の経済面が不安で仕方がない。など多岐にわたります。このとき私たちは、患者さんやその家族の話を伺い、困っていることを解決するため

に最善の方法を検討し、一緒に最適解を探します。しかし、私たち病院だけでは解決できないこともあるため、適切な機関や、院外の専門家を紹介してつなぐこともあります。

このように、「つなぐ・つなげる」仕事をしている私たちがいますので、安心して治療に専念なさってください。

やり抜く力

看護部／外来師長：



看護師 **石塚 玲子**

(いしつか れいこ)

嬉しい春がやってきました、皆さん如何お過ごしでしょうか。原稿を書いている3月は年度末から新年度にかけて、部署の年間の総まとめや新年度の目標、人事異動に備えての準備などなど同時進行ですべきことが一気に押し寄せてきます。そして、何とか今年度もやり切ったという安堵感と4月に向けて新たな気持ちに満ちる時期でもあります。お子さんのいるご家庭では卒業式や入学式、あるいは引っ越しの準備などもあるでしょう。それぞれが何らか新しい生活を迎える変化の季節ではないでしょうか。

また、この時期には特有の避けては通れない『出会いと別れ』があります。外来ではこの3月に一人の看護師が退職を迎えました。なんと勤続47年です！外来患者さんにとっても、なじみの看護師だったと思います。47年の間には公私共に喜びも悲しみも、それはたくさんのイベントがあったでしょう。

数ある思い出の一つに、12年前の東日本大震災があります。病棟所属だった当時、仲間同士食材を持ち寄り泊まり込みで入院患者さんを見守りました。悲観的なことをいう暇もなく無我夢中だったことを覚えています。1年前に起きた3月の地震でも夜間に駆け付けてくれたのはやはり彼女でした。3月になると片づけに追われたことや夜間語りあったことなどを鮮明に思い出します。

勤続最終日には同僚からのたくさんの贈り物や花束を抱え、笑顔の中に清々しささえ見て取れました。お見事です！きっと「やり抜いた」という達成感があったのではないのでしょうか。長年勤めた先輩を見送ることが出来るのは私達にとっても誇りです。この場をかりて感謝いたします。私も先輩方の背中をお手本に「やり抜く力」で頑張りたいと思います。